

「全鍍連」 2017年 4月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 京田 高裕（東九州電子工業(株)代表取締役社長）

「平成 28 年熊本地震から 1 年」

本稿を出すにあたり、何を書けばよいのか本当に悩みましたが、掲載号が 4 月ですので、やはり九州組合としては昨年起きた熊本地震を思い出さざるを得ません。

昨年 4 月 14 日 21 時 26 分の前震に引き続き 16 日未明の 1 時 25 分の本震と、震度 7 の熊本県熊本地方を震央とする地震が発生しました。それから 1 年が経過しました。

震災に会われた方々にとっては、この一年をどう感じられたのでしょうか？我々が想像できない時間の経過であり、決して忘れることのない事でしょう。改めて、犠牲になられた方々へ追善の祈りを奉げると共に、被災なされた皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

先日、我が九州めっき工業組合の副理事長であります株式会社オジックテクノロジーズの金森社長の講演を拝聴しました。めっき組合青年部の会合での基調講演として、熊本地震に遭われて、その被災の状況と復旧活動、及びその経験から BCP の必要性を非常にわかりやすく講演されました。

九州組合熊本支部では、金森社長の会社とあと 2 社の会員企業も被災され、その復旧に相当のご苦勞をなされたようです。また全鍍連関係者の皆様には、全国より当組合を通じて様々な御支援を戴き、改めて御礼申し上げます。

今回、金森社長の講演を聞いて、特に感じたのは BCP の重要性でありました。えてして災害は忘れたときに起こる物で、被災した時から復旧するまでの時間や労力、費用等を考えると、BCP への取り組み方で大きく違ってくるのが良く理解できました。

私などは、会社存続に及ぼす危機は、売上の減少や金融機関との関係など経済的な物が大きく占めるものであると解釈しておりました。非常に反省する次第です。

BCP 構築に当たっては、自社の立地状況について、地震に対しては活断層や火山が近辺にあるかどうか、津波が起きた場合に到達予想地域にあるかどうか、大雨の時の土砂崩れや河川の氾濫等は無いかどうかといった、いわゆるハザードマップの確認が必要と感じました。その上で、当社に関してどの災害が当ては



【数年前撮影した威風堂々の熊本城】

まるのか想定したうえで、災害時にまず考慮すべきは、従業員の安全の確保であり、化学物質の近隣への漏洩対策であり、設備の被災を最小限に防ぐという事だと思います。

そのために、避難訓練や設備の固定など今準備しておくことが重要である事を痛感しました。その他に、被災した場合の生産活動停止をどうやって補填すべきか、復旧のための資金確保をどうするか、など考えておかねばならない事ばかりです。

経験者の言葉をしっかり受け止め、BCP 構築に取り組んでおくことの重要性を認識しました。皆様もどうか、これを機に一考くだされば幸いです。

(東九州電子工業株式会社 代表取締役)